ケアプランセンターあすか通信

令和５年１０月４日発行　　第９７号　　発行責任者　冨田啓暢

ヘルパーさんが来なくなる日

紀南ケアネットでは深刻化するヘルパー不足に関する調査を行いました。ここではその一部を紹介します。回答いただいたのは紀南広域管内の訪問介護事業所管理者、ケアマネジャーです。

訪問介護の依頼にこたえられない

「過去一年間でヘルパーの訪問が困難で依頼を断ったことがありますか」の問いに対し、「あった」との答えが八割強となっています。そうした原因について「ヘルパーが不足しているため」と多くの事業所管理者が答えています。

熊野市「紀和町」「神川町」「育生町」「二木島町」「遊木町」「甫母町」は訪問が難しい

こうした地域への訪問が困難になっているとの回答が多数の事業所、ケアマネからあがっています。これらの地域は、移動時間とこれに伴う費用が事業所にとって大きな負担となっているためです。

同じ介護保険料を支払いながら住む地域によってサービスが受けられないとすれば大きな問題であると考えられます。

土日、夜間、早朝の時間帯の訪問が難しい

「土日、夜間、早朝に対応できるヘルパーが少ないため依頼にこたえられないことが多い。」との意見が訪問介護管理者から上がっています。

同時にケアマネジャーからは、「ケアプラン立案のさい、ヘルパー訪問の必要性を感じても、ヘルパー事業所の受け入れが可能かを先に考えなければならない」「利用者に我慢してもらっている」等本来必要なケアプランが作成できない悩みが多数上がっています。

同じように、朝夕のオムツ交換や食事介助は提供する時間帯が重なるため、利用者に「訪問時間をずらしてもらっている」。また、ゴミ出しの仕事は曜日が集中するため対応ができないので「いったんヘルパーがゴミを持ち帰って出している」等利用者にとって必要な時間帯にサービス提供ができない悩みも多数寄せられています。

一日複数回の訪問にこたえるのは難しい

重度な利用者の場合、一日２～３回の訪問が必要な場合があります。しかし一つの事業所でそれに対応することは困難なため複数の事業者で組んで対応しているケースが多くなっています。同時にこうした対応はケアマネジャーの調整に係る負担を大きくさせています。

ヘルパーの高齢化

新しいヘルパーの補充がなく、ヘルパーの高齢化が進んでおり、「長年頑張ってきたヘルパーが引退するとこの先どうなるのか不安がある。」との意見が多数寄せられています。

こうした高齢化に伴い現場では「身体介護ができる人が減っている。」「入浴介助のお願いができない」との意見が複数ありました。

介護難民も

ヘルパー不足は深刻で多くの訪問介護管理者が「働いてくれるヘルパーがいないのでいつまで事業が継続できるか不安」を抱きながら、日々利用者のニーズに応えるためやりくりしている現実がうかがえます。

同時に職員の中からも「人員不足のため長期休暇が取れない」等の厳しい状況が語られています。

ヘルパー不足によるこの地域の訪問介護の現実は、「利用者にとって必要なサービスが受けられない」「十分な支援が組めず、在宅生活が継続できず、やむを得ず施設入所を選ばざるをえない」等の深刻な問題を生み出しています。

このままヘルパーの不足が続けば、訪問介護という制度はあっても利用できないサービスとなり、ひいては介護保険そのものの存続を危うくすることになりかねない深刻な現状が、今回の調査から考えられます。

「想　い」

井戸町
今西計八さん

教員駆け出しの頃、大変お世話になった先生がおられました。その先生が学校を去られる時に「たいへんお世話になりました。ありがとうございました」と一言が言えなかったこと、悔やまれてなりません。

その後、神上から五郷までの山越えを何度したことやら、まもなく九十歳の人生、反省することばかりです。

利用者の作品

俳句

詠み人知らず

秋桜（あきさくら）
群れ咲く先や　御熊野の海

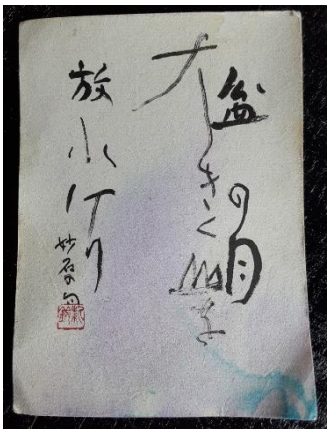
コスモスの
香りを連れて　友来たる

小鳥来て
手を止め休む　落葉掃き

熊野市飛鳥町
久保妙徳さん

盆の月
大きく山を放れけり

久保さんの俳句を知人の書家がハガキに書いて送ってくれました。



絵手紙

熊野市
森本道子さん

鉛筆画

「オードリーヘプバーン」
新宮市
辻　信一郎さん

手芸作品

ビーズで描いた作品
熊野市新鹿町
榎本孝子さん